

北のチャレンジャー

生涯「山守り」体動く限り続ける



小林 文男理事長(78)

NPO法人「森林遊びサポートセンター」

道内で、小学校を対象にした植樹体験や森林環境教育など幅広い活動で、自然環境の重要性をアピールしてきた「NPO法人・森林遊びサポートセンター」(札幌)の小林文男理事長78。このたび、



津元・道森林管理局長から林野庁長官感謝状を受けた小林理事長(左から2人目)とスタッフ

◆小林 文男(こばやし・ふみお)1933年11月15日、秋田県生まれ。78歳。趣味は盆栽。血液型A。家族は夫人と一男一女。



小学生への植樹体験風景

林野庁が進める「国民の森林(もり)づくり」の平成24年度推進功労者に選ばれ、1日、林野庁長官感謝状の贈呈式が行われた。北海道の「山守り」として過してきた58年間を振り返った。

「森づくりのエキスパート」として、津元相光(よりみつ)道森林管理局長(55)から感謝状を受けた小林理事長は、われわれの活動は国や環境、林業、学校などフィールドを提供していただき、多くの企業の助成金などの援助があったり成り立つもの。皆さんに感謝をしたい」と喜びをかみしめた。

同団体は91年に「札幌森友会」として発足。以来、森林づくりのボランティア活動、自然観察会のほか、中日友好交流の森林づくり、学生の国際交流キャンプでの森林整備や、時には道内から屋久島鹿兒島まで出向くなど、年間80回以上の行事を開催。創立20周年を迎えた昨年は、行事は通算1500回を超え、参加

北の大地で、生涯現役”を貫くつもりだ。

「愛林愛木」が座右の銘。「森人も、育てるには愛を注ぎ続けることが必用。森づくりは、植樹だけでなく、下刈りなど環境、条件に応じた保育作業が重要。地球の温暖化防止、100年後、200年後の子どもたちにも住みよい自然を残すためにも、この長く地道な作業の継続は不可欠。自分も体の動く限り携わっていききたい」

ボランティアの森づくり活動の取り組みが新聞各紙・広報誌等に掲載されました。

北海道新聞

2008年 5月13日 火

発行所:北海道新聞社 札幌市中央区大通西3丁目6 〒060-8711 電話:011-221-2111

学校林再生に取り組み札幌・駒岡小 観察会や樹名板制作

地域と協力 苗木植えも

教える・学ぶ

「自分の木」に愛着心



学校林で樹木の種類を調べる駒岡小の児童たち

観察会や樹名板製作

札幌市南区真駒内にある市立駒岡小学校(山本宏校長、児童六十六人)の自慢は、札幌市内で唯一という学校林。このおかの森だ。開校から五十九年、学びや遊びの場として子どもたちをほぐくんできた森も、このところ、樹木の過密化で元気を失いつつあるという。同校は、この春から、NPO法人の支援を受け、森の再生に乗り出す。(石田悦彦)

「自分の木」。幹の名前を書き込んである。新入生は入学して、サポーターとして、自分、間もなく、お気に入りになる。この日は札幌市内のNPO法人「森林遊びサポートセンター」(小)の小林理事長(78)が、このおかの森を案内した。児童は、樹木の種類を調べ、樹木の周囲を計測した。森の再生の第一歩として、子どもたちが木に愛着を持ってもらおうという試みだ。

「春にきれいな花が咲いて、自分の木がキタコブシという名前だと知りませんでした。樹木図鑑を手にした四年生の喜島君が、おかの森を案内した。おかの森は木漏れ日(ひ)を

細めながら、幹を見上げて、その成長を見守るのが、このおかの森の習わしだ。この日は札幌市内のNPO法人「森林遊びサポートセンター」(小)の小林理事長(78)が、このおかの森を案内した。児童は、樹木の種類を調べ、樹木の周囲を計測した。森の再生の第一歩として、子どもたちが木に愛着を持ってもらおうという試みだ。

「春にきれいな花が咲いて、自分の木がキタコブシという名前だと知りませんでした。樹木図鑑を手にした四年生の喜島君が、おかの森を案内した。おかの森は木漏れ日(ひ)を

たという。森の手入れを考えていたところ、NPO法人の支援で学校林を育てる国土緑化推進機構の事業の存在を知った。石狩支庁の仲介もあり、本年度の観察会に選ばれた。今後、子どもたちは「自分の木」に樹名板を製作して取り付けた。観察会やシイタケ作りなどを通して森に親しむ一方、秋以降は父母や地域住民の協力を得ながら、間伐や苗木の植え付けなど、本格的な取り組みを行う。

◆鳥集まる山に
「スナラが自立する森に、針葉樹の下木やアカエゾマツ、実なるナナカマドやヤマブドウ、花の咲くエゾヤマサクラやエゾムラサキツツジなどの多様な苗木を植えて樹種を増やし、鳥が集まる里山づくりを目指す。森の中心には、子どもたちが木々を寄せ集めて作り上げた「秘密基地」があり、この日もたくましい歓声がこだましていた。小林理事長は「子どもたちの思いが詰まったおかの森を豊かに再生してあげたい」と話している。

